

平成24年度 図書館協議会 定例会 議事録

平成 24 年 6 月 7 日 (木)

午後 2 時 00 分

中央図書館 2 階 講堂

図書館長 本日は、お忙しいところお集まりまして頂き有難うございました。
ただ今から、平成24年度の苫小牧市公民館運営審議会・図書館協議会 定例会を開催させていただきます。

今回は委員の改選にあたりますので、まず会議に先立ちまして、教育長より各委員の皆様へ委嘱状の交付をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

< 委嘱状交付 >

図書館長 委員の皆様よろしくお願い致します。
それでは、改めてまして山田教育長よりご挨拶申し上げます。

< 挨拶 >

教育長 それでは、ここで私の方から改めまして委員の皆様をご紹介させていただきます。

< 委員紹介 >

図書館長 大変申し訳ないのですが、教育長はこの後、公務が入っておりますので、ここで退席させていただきますが、ご容赦いただきたいと思います。

それでは、続きましてこれより関係職員を照会させていただきます。

< 職員紹介 >

図書館長 それでは、これより議事に入らせていただきますが、議事の1番目正副会長の選出でございます。この審議会・協議会には規則によりまして、会長及び副会長を置くことになっておりますが、いかが致しましょうか。なにかご意見、ご推薦がありましたらよろしくお願いいたします。

委員 事務局に一任します。

図書館長 はい。事務局に一任というお声でしたが、それではよろしければ提案させていただきますと思います。前松井会長につきましては教育研究会学校図書館研究会の部会長でありまして同様に渡部哲委員に会長を、そして過去の経緯もございまして、谷口佳子委員に副会長をお願いできればというように事務局としては考えております。

がいかがでしょうか。

委員 異議なし。

図書館長 それでは、そういった形で進めさせていただきたいと思います。渡部会長、谷口副会長にはご苦労をおかけいたしますが、今後とも一つよろしくお願ひ致します。そして、これからの会議につきましては、会長が議長となりますのでよろしくお願ひいたします。

議長 それでは、只今ご指名いただきました北星小学校長の渡部でございます。よろしくお願ひいたします。座って進めさせていただきます。次第に沿って進めさせていただきますが、15時45分くらいを目安に今回の会議を進めさせていただきたいと思っております。

それでは、本日の議事といたしまして、始めに勇払公民館の運営について、23年度の事業報告、24年度の事業計画について、それぞれ一括して説明をお願ひいたします。

< 以下資料により説明 >

勇払公民館長 ◇勇払公民館の運営について

1. 平成23年度 事業報告
2. 平成24年度 事業計画

以上、簡単ではございますが、勇払公民館の活動状況についてご説明させていただきました。よろしくお願ひいたします。

議長 はい。ありがとうございました。それでは、今説明がありました部分につきましてご質問等ございましたら出していただきたいと思います。まず昨年の事業の実施状況につきまして、1ページ目になりますが、それぞれ参加の人数につきましては、増加の傾向にあると説明がありましたが、何かご質問、ご意見も含めてお聞きしたいのですが、何かございませんか・・・。

続いて、実施計画の方、2ページ目、3ページ目ですけれども何かございませんか。

委員 図書コーナーの利用状況等は、どういう状況でしょうか。

議長 3ページ目のところですね。図書コーナーの利用促進は、いかがなのでしょう。

勇払公民館長 併設されている図書コーナーなんですけれども、専任のアドバイザーがおりまして、利用状況が増えているというのは、積極的にお客様にお話をお聞きして、どのような本が必要なのかをお聞きしながら、端末で調べてこのような本があるよと積極的に語りかけながら、皆さんのニーズに応えてきたと考えております。

利用される方としましては、子育て中のお子様小さいお母さんやちょっと高齢者の

方が中心となって利用されています。統計的にもそのように出ております。

委員 数としてはどれくらいでしょうか。

勇払公民館長 昨年度は6,100冊位、一昨年が4,300冊位だと思います。やはりこの語りかけで、ご利用を促進している効果が出ていると思います。

図書館副館長 補足の説明を、図書館の方からさせていただきます。図書館協議会資料の中に、中央図書館を含めまして、各図書コーナーの利用状況が分かる資料がございます。資料7ページをご覧くださいと、開館日数や貸出状況が分かる3-7という表がございます。その中の一番上の右端になりますが、勇払図書コーナーの開館日数、貸出人数、貸出資料数がございます。これを見ていただければお分かりのように、平成23年度、担当者の図書コーナーの中の配置や、資料の並びなどを大変工夫をしていただいたということや、利用者の方への声かけをしていただいているということで、大変利用が伸びているという事が、これで分かると思います。数字としては、22年度が4,000冊台、23年度が7,000冊台の数字が示されております。補足して説明させていただきました。

議長 公民館の図書コーナーについては、勇払公民館の部分であるというです。よろしいでしょうか。

委員 これは、ずいぶんと年々利用冊数が増えているようですが、これは何か工夫とかがあるのですか。

勇払公民館長 やはり、勇払というのは地域的に、なかなかこちらまで来ることが大変なものですから。それで以前は、ああ、そうですかという雰囲気だったみたいなんです。これが伸びた理由を担当の方に聞きましたら、やはり声かけしながら、そういう本は、今借りられているよ。でも、住吉コーナーの方には、同じ作家のこういう本があるよですか、そういった形で予約を受けて、お貸しをしているというのが原状のようです。伸びたのは、やはり努力しているものと私は思っております。

委員 全国的に公民館の図書室というのは、利用状況は非常に良くないという報告が、図書館の新聞とかその他の雑誌で、紹介されたりしているんです。これは、全国的に見ても良い例というか、非常に努力されていることが良く分かる資料だなというのが、つくづく思いました。どうもありがとうございます。

議長 それだけ、ニーズに応えているということかと思いますが、他に公民館に関わっての部分では、ございませんでしょうか。

委員 1点だけ、今の話に関連して、それは勇払の場合は専任の図書担当者というのが、いらっしゃるんですか。

勇払公民館長 勇払には生涯教育のアドバイザーがおりまして、その者が図書も兼任しております。

委員 そうすると市の正規の職員ですか。

勇払公民館長 嘱託職員です。

委員 じゃあ、その方のご努力の結果ということなんですね。

勇払公民館長 そうでございます。

議長 よろしいですか。他にございませんか・・・。
それでは、図書コーナーの部分の質問も出ていたところではありますが、議事のほうを進めさせていただきまして、中央図書館の運営について、事業の経過報告、24年度の事業計画を併せてご説明をお願いします。

< 以下資料により説明 >

図書館副館長 ◇中央図書館の運営について
1. 平成23年度 事業報告
2. 平成24年度 事業計画
以上で、説明を終わらせていただきます。

議長 それでは、一括して説明をしていただきましたが、ページを追いながら質問、ご意見等があればお聞きをしていきたいなと思います。1ページ目に、昨年度の実施状況の報告がされておりますが、質問等ございませんか・・・。
なければめくっていただきまして、3ページから利用状況ということで4ページ、5ページ、6、7ページと、順に利用状況の説明の資料がございますけれども、何かお気づきのことがございましたら、お願いします。

委員 先程、中央図書館としては、横ばいだというお話でしたよね。ただ、勇払のこともあるので、その総トータルというんですかね。苫小牧の図書館の全体としては、やっぱり伸びているということでしょうか。

図書館副館長 相対的には、ほぼ横ばいというような数字が出ています。内容的には、中央図書館が減となっていて、各図書コーナーの増加がございます。トータルして横ばいということですね。

議 長 予約サービスですとか、インターネットということで、便利、利便が良くなったということですよ。

図書館副館長 はい。どこで借りて、どこに返してもよろしいですよという、そういう使い方と、予約をしまして、受け取り館を希望することが出来ますので、自分の受け取りやすい場所を設定することが出来ます。インターネットからの予約につきましても、どこで受け取りたいかということも入力出来ますので、簡単に言えば中央図書館所蔵の本でも、中央図書館に来ないで利用出来るという、そういう利便性は周知されてきているかなと考えております。ただ、その他に各図書コーナーが、勇払は特に、図書コーナー内の改造をしていただいたり、置いている本をこんなふうにしてもらいたい、というご希望を勇払図書コーナーを始め、各図書コーナーが中央図書館の方へ伝えていただきまして、図書の入れ替えと、その地域に合う利用に見合った、資料が用意出来るような工夫を、中央図書館と一緒に、図書コーナーのスタッフが協力して考えていただいているのも、大きな増の理由かなというように考えてはおります。

委 員 私の記憶違いだったら申し訳ないんですけども、確か昨年と同じ場で、市の蔵書の冊数合計は、50万冊を目標とすると行ったような気がしたんですけども、今年はそういった目標数は、特に掲げていないのでしょうか。

図書館長 確かに目標50万冊というお話を、従来からしてございまして、その段階で除籍だとか、閉架書庫のスペースだとか、様々な書庫のスペース等を考えたときに、50万冊という数字は難しいのではないかと、というお話をさせていただき、また、ご意見をいただいております。そして、我々は、ご指摘やご意見をいただいたように冊数ではなくて、どれだけ利用されるかということに、主眼を置くべきだというご意見もいただいておりますので、あまり50万冊にこだわらずという考え方はあります。ただ、全体としてやはり他の町の図書館だとか、市民の要望というものの中で、やはり50万冊というものは、一つの目安かなというようには考えておりますが、具体的に目標という形での設定は、今回してございません。

議 長 よろしいですか。利用状況等の資料を見て他にご質問等はございませんか。

委 員 6～7年前に、ちょっと耳で聞いたことだったので、はっきりした数的なことをよく覚えていないんですけども、中央図書館の方で利用している総市民に対しての、利用者数のパーセンテージっていうのは、だいたい14～15パーセントだったのではないかなあということ、聞いたことがあるんですけども、最近はどんなふうになっているのでしょうか。

議 長 お答えいただけますか。

図書館副館長 お手元の資料の4ページをご覧ください。その中の1-1の表になりますが、利用状況として真ん中の辺に、貸出し利用率というのがございます。12パーセントですね。23年

度はちょっと落ちまして、11.7パーセントとほぼ12パーセント程度が、人口比の需要になります。登録している方を全部利用者数として、計算される図書館もあるんですが、苫小牧の中央図書館では、実際にカードを持っている方で、利用した方を対象にして数字を作っておりますので、ちょっと外の図書館より低い数字が出るということがあるかもしれませんが、これが実際に利用されている方のパーセンテージです。

議 長 はい。ありがとうございます。延べとかではなく、実際の割合なんですね。

図書館
副館長 はい。実際の割合です。

議 長 でも、11パーセントということは10人に1人は使っているということですから、結構どう
なんでしょうか。他と比べると、これは良いほうなんですかね。

図書館
副館長 はい。もっと多い数字を出している図書館もございますが、そこが実利用者を対象に
作っている数字かどうかということは、統計表から読み取ることは出来ませんので、比較
を今、現在お答えすることはできないんですが、一番多い数字でないことは確かです。

委 員 それなりに利用者はあるんじゃないかな、という感じはしますけどね。

委 員 かつて、10年ほど前になりますけども、東京日野市でしたか最高50パーセントくらい
まで上がったとか・・・。

図書館
副館長 はい。東京の日野市ですとか、北海道では置戸町なんか、高い利用率を出してい
ます。

委 員 東京日野市などでは、50パーセント近くの利用数になっていると。10年くらい前の話
になりますが、市長さんが大変図書に明るい方で、全国図書館協議会の事務局長など
もされている方で、市長さんが先頭を切って読書運動をされていると。そこで大体49～
50パーセントに近いって話で、これがおそらく今までで、最高じゃないかと言われてい
るんですけども、それはあまりにも飛びぬけて高い訳ですけど、14～15パーセント位っ
ていうようなのは、けっして低い方じゃないなと思ったんで、去年あたり少し下がったと
いうことなんですけど、今その分他のコミュニティセンターだとか、勇払とかで増えている
ということであれば、あまり減っていないのではないかなという感想を持ちました。

委 員 前年もお聞きしたんですが、除籍の数が昨年も大幅に多かったと思うんですが、今年
になったら更に増えておりますよね。これについて、昨年もお説明をお願いしたんです
が、今回ご説明もなかったんですが、どうしてまたこんなに増えたんでしょうか。

図書館
副館長

この数につきましては、19年が5,000冊弱、20年が10,000冊、21年が9,000冊、22年12,000冊、23年14,000冊というように増えてきております。ページ5ページの2-2の表になります。中央図書館では、先ほどもお話しましたように年間10,000冊を超える資料を購入をさせてもらっております。図書館で提供する資料としては、古くても利用できるものと、情報が古くなると利用が見込めなくなるものもございます。蔵書が充実してきたということで、そういう種類のものも、ずっと保管はしてきたんですけども、蔵書が充実してきたことで、そういう資料を整理することが出来るようになったということが、大きな理由の1つと考えております。

委員

すいません。例えば去年だったら、不明が2,000冊、未返却が3,000冊というお話が出ておりますが、今回あれですがそういうことではなくて、2,100冊増えたのはそういう不明とか未返却ではなく、古く図書館に不要なために、そういったものを2,000冊処分したというご説明なんでしょうか。

図書館
副館長

この増加の部分の内訳というように、考えてよろしいでしょうか。

委員

本来聞きたいのは、除籍の内訳です。これについては、去年もお伺いしたから、今年ではあらかじめどこかに書いていただけたらありがたいんですけどね。それが減少なら分かるんですが、去年も申したと思うんですけど、毎年10,000冊程度の増加があると聞いております。購入図書が増加がね。それに対して、除籍が10,000冊を超えるというのは、はなはだ不都合なことではないかと申し上げたことを覚えております。だから、1年間除籍をやめるだけで、目標の50万冊にいつも簡単に届くはずだということも申し上げた。ですから、その目標は、今回は立てないということは、1つの進歩だと思います。ただ、目標も立てないんだけど方針まで削られちゃった事が良いことかどうかは、後でお聞きしたいと思いますが、とにかく、昨年聞かれてそれに対する対応をしたものは、翌年度はやっぱりそれなりの説明が加えられて、然るべきだと思うんです。特に今回のように更に増加が2,000冊ということはどうですかね、これは、はなはだ大変なことだと私自身は思っております。ですから、もしそれが、今ここでお分かりでしたらあれですし、それでなければ、もう少し図書館側としても、出す前にちょっとお考えいただけたらありがたい。私は、普通の数字じゃないと思います。

議長

まず、この除籍の冊数には、前年度の不明になった本とか、未返却の本も含まれている数字なんでしょうか。

図書館
副館長

相対的な数字になりますので、委員からありました、不要な本を捨てているという訳ではありません。それに、不明本とか未返却本とかが少し含まれておりますので、その内訳をご用意いたします。

委員 ただですね、昨年伺ったもので、さっきも申し上げましたが、不明で2,000冊、未返却で3,000冊ですから、全体の去年の場合でも半分以下なんです。ですから、それが今年度に急に増えるということもないと思うんです。そしたらやはり、破損とか汚損とか、それでも5,000冊も6,000冊も、そういうのがあるとは思われないんですよ。

議長 その辺りはいかがですか。

図書館副館長 はい。除籍をする資料としましては、今上がりました不明本と未返却本、それと本当に利用者の方が汚損破損で使えないという場合です。それと、図書館で通常の利用をしても、本は消耗品ですので段々、使用が難しくなるという、そういう状況になってきます。子どもの本とか良く利用される大人の小説でも、汚損が激しくて一度閉架の書庫。一般の皆さまが利用するのが開架というふうに呼んでいるのですが、1階の棚に置いて利用するのは難しいかなというふうになりましたら、2階の閉架書庫にしまうように、流れが出来ております。それをちょっと取って置くということも、今までずっとしていたんですけども、新しい資料が充実してきましたので、そういう汚損の激しいもので取ってあるものの中から、利用の見込めないようなものを、除籍をしていくという作業を続けております。50万冊という目標値を掲げていたこともありますけれども、50万冊資料があれば資料が充実しているかという、必ずしもそうは言えないということは、ご理解いただけたと思いますが、閉架書庫にそういう汚損の進んだものをたくさん取っておいても、利用が見込めない場合には、除籍のほうに回らせていただいている。それを順繰りにさせていただいているという事情があります。

委員 具体的数字が出てこない、私としてはなんとも申し上げられませんが、また別の時にお話させていただきます。

議長 その除籍の数の中で、新しい資料の充実をしてきたという中で、廃棄をしていくのが、普通に利用していた時に、年間どれくらいが物理的に使うのが困難になり、あるいは、資料的な価値が失われるので廃棄をする。という数を示して欲しいということだと思いますが、それは可能ですか。

図書館副館長 汚損破損でという区別は出来ますので、お示しできると思います。

委員 いや、汚損破損じゃないんですよ。古いから除籍するっていう数もある訳でしょ。つまり、除籍数のどれくらいの割合で、どんなものがあるのか。ですから、3回目ですけど、昨年お伺いしたのは、不明が2,000冊、未返却が3,000冊ですから、そうすると、それ以外の、去年の場合だったら7,000冊が汚損破損。それから古いから更新したい資料ということになる訳ですよ。そうすると、今回もそういう数字は、当然図書館の内部にあるはずだと思います。そういうことを見ていかないと今後、図書館としてもじゃあ、どういう資料をどう整理するかという方針も立たないと思うんですよ。よろしくお願いします。

議長 それでは、他にないかありませんか。はい、どうぞ。

委員 先ほどの人口比率の問題なんですけども、4ページの1-1の表を見ると、平成19年から22年度に掛けては約12パーセント台で、平成23年度になって11.7パーセントと下がってきてるといのは、ちょっと気がかりな気がします。図書館がずっと使われていると微増でもだんだんと増えていくぐらいの形だと、まだ安定出来るかなと思うんですが、まあ理由ですね。例えばその点で新しい企画を立てるときに、どうやって今まで利用していない人たちに向けて利用を上げていくか。そのために今年度は、どういう事業を組み立てていくかということは、あってもいいのかなということなので、例えば、分かりませんけれども、赤ちゃんのコーナーの事業は抽選になるくらい、とても人気が高いと前に伺ったんですけども、6回ですよ。これは特に抽選ということでは今はないんですか。

図書館副館長 今の申込状況につきましては、赤ちゃんのひろばの方は、0歳児は大変人気がありまして、抽選になる回もあります。1歳児は、大体15名の募集に対して、大体、毎回15名程度で申し込みがされています。0歳児の希望が多いので、その対応について応えられるように、頑張っていかななくてはいけないなどは感じております。1回に対応できる人数は、15組というのが限界かなというふうには考えていますので、回数につきましては、今後の検討にしていきたいなというふうには思います。15組の前は10組で、会場も1階のお話しコーナーの狭いところでしたんですが、ご希望も大変多かったのも、場所をこの講堂に変えまして、15組に増やして実施をしております。

委員 そのように少しずつは、変わっているようなんですけども、4ページの1-2の表を見ると0歳から6歳、7歳から12歳のところは、特に7歳から12歳のあたりは非常に伸びていますよね。ということは、この小学生のお子さんと30台のお母さん、お父さん達が組でやってきて、このあたりである程度の数字を確保したり、延ばしているのかなというのが読み取れると思うんですが、やはり10台の人達に対しては、受験もあるし、クラブ活動もあり、なかなか図書を借りることが難しい状況だなと思うんですが、さっきの人口比率に戻りますけれども、どこの年代に対して、どういう企画、例えば移動図書館を増やしてみるとかですね、具体的に目標をもって企画を立てると、翌年こういことをやったから伸びたとか、これをやったけどあまり変わらなかったんだとかですね、そういうことも読み取れると思うので、そういう漠然的に年代別、どういうご努力をしながら、翌年目標を掲げて、反省も含めて伸びるところはもっと伸ばすというような形の計画が入ってくると、なお一層伸びていくポイントにもなっていくのかなと思います。

議長 このせっかく出されているこの統計、この結果をどういうふうに次年度、今年度に発想的につなげてきているのかというようなことで、利用者は現実のところでは、ちょっと減ってきているぞと、その中でちょっと心配だなというご意見なんですけども、そんなことで、資料15ページの今年度の実施計画の方にも、大体話が入ってくるかなと思います。行事関係の実施計画ですが、これとちょっと併せてですね、例えば今までの統計を元に

しながら、こういう蔵書を増やしているんだとかですね、利用者を増やしていくための、そのあたりのどのような発想に立って、新年度の計画を立てられてきたのか、そのあたりをちょっとお聞かせいただけないでしょうか。

図書館
副館長

はい。実施計画につきましては、例年の事業内容を継続している内容にはなっております。その他にも事業を実施しております。今年度予定をしているのは、小学校、中学校、ちょっと高校は入らないんですけども、小学校高学年、中学生はなかなか図書館のほうに来る時間も、移動方法も難しいというお話を聞いておりますので、実際に中央図書館と学校の図書委員さんと協力して、お勧めの本を上げてもらって図書館で展示するのはもちろんですけども、その本のリストを各学校に配布をしてみて、そして利用を促進したいという予定をしています。先ほどもお話ししましたが、実際に個人がカードを利用しなくても、団体貸出しの資料を利用していただけるといこともあります。そして、今年度の試行なんですけれども、保育園の方に移動図書館車が3保育園だけなんですけども、巡回をさせてもらって、配本の事業をはじめしております。スクールメール便「ブックちゃん」は調べ学習と朝読用の資料がございますので、個人のカードを利用しなくても図書館の本を学校で利用をしていただけるとい、そういう方法も考えております。統計を見ていただきますと、中央図書館の本の利用統計になりますが、子どもの本の利用がそういう事業を展開したので少し伸びています。ページ数としましては、7ページの3-9の表をごらん頂きますと、児童書の貸出し冊数が相対的には伸びているというふうに、子どもに対しては、ポイント的に少し計画を立てられているかなというふうには考えていますが、今ご指摘のありましたように、年代別の対応というのもこれから考えてみたいと思います。

図書館
館長

ちょっと補足をさせていただきたいと思います。利用促進ということで、具体的にこういう事業をやるということは、明確に示されてはいないんですが、やはり、今一番大きな問題というのは、各方面から学校図書の部分が、非常にクローズアップされている。そうしたことの支援というのを、一つ力を入れていきたい。実は先般、学校の先生方にもお話ししたんですが、学校によっては集中的に図書活動に取り組みたい。そういう時に学校ばかりではなく、図書館を使ってください。その時にこういう部屋をお貸ししたり、一般閲覧室を利用しながら、図書館ってこういうとこなんだということに、ちょっと触れていただきたい。そういうことも、我々としてはできるだけ協力していきます。ということをお話しています。来月でしょうか、1つの小学校がこちらに来られるということがありますので、そういった部分で、できるだけ小学校、中学校の学校図書事業への協力支援というものを、力を入れていきたいというふうに考えております。当然、先ほど事業報告でもありましたように、ブックちゃん事業というものを昨年暮れから始めまして、当然事業の充実というものにつきましては、予算が付いてこなければ何も出来ない訳ですけども、そこら辺についても、今お話にあったような、実際にどういう使われ方をしているのか、どういう要望があるのか、そこら辺も踏まえた中で、今後の拡充に向けて取り組みたいというふうに思っています。それから、もう一点は実は移動図書館。違う会議の中でも、移動図書館の活動というものを、もう少し見直したいということで話がありましたけども、

そういったことも含めましてですね、移動図書館に来られる方、その中でもやはり中央図書館に行ってみたいというような情報を、積極的に利用者伝えるべきだろというふうに考えております。したがって、パンフレットだとか、ポスターは今もやっているんですが、より積極的に利用者に対して訴えていくというようなことを、職員には指示しております。それから、図書館の閲覧室の利用についても、専門的にどうなんでしょうか、面置きという部分においても、やはり検討すべき部分があるんだろう、ただ並べておくのではなくて、空いているスペースを使いながら、工夫をしていくということも考えるように指示しております。そういった中で、少し動きのある図書館を目指したいというふうに考えておりますので、どこまで出来るか限られたスタッフの中で非常に難しい部分があるかと思いますが、数字にとらわれることなく出来る部分については、やっていきたいというふうに考えております。以上でございます。

議 長

はい。ありがとうございます。私、学校関係ですけども、学校の方では皆さんもご存知かと思いますが、読書の重要性というのが、このところ随分言われておりますので、小学校ではほぼ100パーセント朝読書の時間を入れておりますし、そういう中で学校の中の図書館ですとか、自宅から本を持ってきて読むという部分では、随分進んできているのかなという感想は持っています。私も、実はこの春に苫小牧のほうに着任したんですが、図書館の方と関わりを持たせていただきまして、そこら辺との連携と言いますか、それを通じて子ども達が卒業した後も、図書館を気楽に利用できるというような形に、もっともっと進めば良いのかなというような気はしておりました。非常に参考になるなあと、思って聞いていました。今年の事業等の部分ですけども、他に何かございませんか。どうぞ。

委 員

さっきちょっと言いかけたんですが、今年の協議会資料から方針が抜けたんですが、館長もいよいよ1年2年経って、それなりのお考えを出してもらって良いんじゃないかと思ってるんですがね。逆にそれが、方針が出なくなったのは、どんな理由があるんでしょうか。

図 書
館 長

あの、ごめんなさい。従来今まで、統計要覧ですか。そういったものを印刷作成しまして、皆さまにご提示をし、その中で方針だとか、示した部分がありました。その方針そのものとのとらえ方というもので、その年その年の方針というものと、それから図書館本来の方針というもの。そういう部分のとらえ方を、整理すべきというふうに考えております。当然、教育ということをよく言われますが、そういったことの中で方針がそんなに変わっていいのか、そんなに変わるだけの事業ができるのかということもありますし、そういった要素はあるとは思いますが、図書館としての方針というものを、きちっと示す必要があるんだろう。したがって、それがその年その年ではなくて、苫小牧の図書館としては、こういう方針で運営をしていく。というようなものがあっていいんじゃないかということの中で、今回、印刷作成が間に合わなくて申し訳なかったんですが、それらを踏まえて今、作成に取り組んでおりますので、出来次第、皆さまにお渡しして、お示したいと考えております。

委員 あ、要覧には方針をお書きになるということですか。

図書館長 要覧になるのか、業務概要になるのかそこら辺も含めて全体を、今再考しております。そういったことの中では、そういった部分を表現する必要があるというふうに考えております。

委員 そうですか。年度毎の方針でもとつても立派なことが、2ページに渡って毎年書いてあったんですが、何もそれをお取り下げになる必要はないと思うんです。特に館長として、ある程度の業務が、全般にわたって理解されたんならば、それは館長の特色をお出しになるべきだと思うんです。かんぐって言えば、これは将来に向けて今のところ方針は出さないほうがいいんじゃないかと、そういう受け取られ方をされかねないですよ。それくらいだったら、例年と同じものをある程度お出しになっておいた方が、私は無難だと思います。ですからね、やっぱり個性をあえてお隠しになっているような感じがしないでもないんです。

図書館長 なるほど。まったくそういうつもりはなかったんですが、ただそう言ったことで考えていますのでよろしくお願いします。

議長 はいどうぞ。

委員 利用者を増やすということでもありますけれども、一番最後の資料に、レファレンスの件数が出ていましたが、レファレンスというよりも前の協議会でも申し上げたんですけれども、どうしても何か物を尋ねるといのは、敷居が高いところがありますけれども、転勤族の多い町なので、始めてこの町に来た子どもとか、お母さんとか、何でも聞いてください、という人が一人いて、レファレンスではなくて、例えば、こんなふうにしたら団体貸出しが出来ますよとか、図書コーナーの裏側には、子どものトイレがあるんですよとか、使い方とか、どこにどうゆうコーナーがあるとか、図書館全体の館内の内容とか使い方とか、そういう形を非常に分かりやすく歩いて説明してくれたりするような人が一人おられると、ずいぶん違うんじゃないかなと思うんですよね。例えば、大好きな本があったら、その人の関連の本でこんな本もあるよとかって、一つの助言がですね、さらに違う作品をもう一冊借りてみようとか、そういう形につながっていくので自然に伸びていく形を、出来るんじゃないかなと思うんですよね。図書館が今、大変なもの分かりますけれども、運営の人数を変えずにですね、誰かそういう方を一人ずつでも、カウンターで構えてるのではなく、こんにちは、とこちらから声をかけながらですね、気軽なお姉さんみたいな形でいろんなことが聞ける。その先に、実はこんなことも聞いてみたいんだけどと言ったら、レファレンスということになって、じゃあもっと詳しいこの方に聞いてみましようねって、その方が全部答えるのではなくてね。そういうつなぎをしてもらえないかな。是非してくれたら敷居が高くない、気軽に利用しやすくなるんじゃないかなというふうに、重ねて昨年も申し上げたんですけども、何とか是非実行できないのかなと思います。

議 長 そのあたりいかがでしょう。

図 書 その辺につきましては、様々なご指摘、ご意見その通りかと思っております。なんとか
館 長 そういった形で、どこまで出来るかという部分はありましょけれど、今のご意見は受け止め
 させていただきたいと思っておりますし、その取り組み方って色々あると思います。ただ、
 限られたスタッフということもありますし、たまたまボランティアさんでフローワークさん
 という方もいらっしゃいますので、そういう方々との連携の中で、取組みを進めている部
 分もありますので、期待応えられるかはどうか分かりませんが、おっしゃることは十分理
 解しております。

議 長 是非そのこともよろしく願います。ほかに。

委 員 今、レファレンスが出たついでで、これは3年前からお伺いしていることで、今回初め
 て資料の中に組み入れられてこれは大変ありがたく思っております。それで、今回新た
 にレファレンスで加わったのがですね、1階カウンターレファレンス統計ですね。昨年
 までは、参考図書室のレファレンスの数は、お教えいただいたと思います。それでです
 ね、参考図書室の方で年間600件、それに比べると1階のカウンターのレファレンスは
 2,564件と実に素晴らしい数字が出ておりますが、2階参考図書室の方は高度、中度、
 簡易とありますが、1階のレファレンスは、どの程度のものが、どうカウントされているのか
 ということをまず、ちょっとご説明いただけたらありがたいと思います。

議 長 願います。

図書館 はい。説明のときにも触れさせていただいたんですが、どのようにカウントするかって
副館長 いうので数字がすごく違ってくるのが、このレファレンスの数字になります。2階は参考
 図書室という位置づけですので、先ほどご説明させていただいたような、カウントの仕方
 をさせてもらっています。それで、1階の奥のスタッフがカウンターに座りますので、直接
 返事を出来るようなものは、カウントは控えましょう。でも、カウンターのパソコンを使いな
 がら回答が必要なものについては、簡単な質問でも良いので、どれだけお客さんとの
 やり取りがあるのか、まず、数を把握してみようということ、お客さんからいろんなことを
 聞かれたのはどれくらいかなということ、まず取ってみようということ、このような数字
 を出させていただきました。この数の違いから見ても、利用者の数も1階と2階では、少
 し違いはあると思いますけれども、こんなふうにしてカウントの内容を変えるとこんなにも
 数字が違ってくるというのを、ちょっと知っていただくのもいいかなあとと思ひまして、これ
 をちょっと付けさせていただきました。この中でも、記録を残している物もございます。そ
 れにつきましては、ここの表に入れていませんが、記録を残す物は、1階で対応するも
 のについては、一桁ですね。月一桁の中に収まっていたと思います。

委 員 はい、ありがとうございます。もちろんあれでしょうね。1階のカウンターと2階の参考室
 は連携があるんですね。分かりました。出来ましたら先ほど委員の方からも話が出たよ

うに、カウンターの向こう側に居るだけではなく、積極的にカウンターの外に出させていただいて、本棚の整理をかねて巡回しながらでも、いろんなレファレンスが行えると更に数字も増えて、親しみやすい図書館になると思いますのでよろしくお願いします。

議長 親しみやすい図書館ですね。資料的にはですね、色々質問やら意見を、お聞きしていく内に、大体最後の方の資料のところまで来た訳ですが、昨年の資料等を見ながら、今年の事業や図書館のこと、何でもいいんだと思うんですが、まだご発言をいただいている方、何か感想でも結構ですので何かございませんか。これから図書館の利用に関わっていくことであれば、何でもいいんですよ。

館長 はい。

議長 よろしいですか。

委員 私は3年くらい前からネット予約をさせていただいて、大変重宝しております。やはり勇払で受け取れるように出来ますし、ちょっと小耳に挟んで良いものだよと聞いてても、図書館に行ったら忘れちゃってるということもよくありますので、聞いた時にすぐ調べられて、チェックできて、作家でも調べられるし、本の名前でも調べられて、すぐ予約が出来ますので、今実際にまだ半年、8ヶ月くらい待っている本もございますが、やはりパソコンを開いたときに、たまたまどうかな。貸出しになっているかなと調べられる気軽さが、とても重宝しております。まだ、これから3冊頼んでいるんだと、楽しみにしておりますので、そういう面でも勇払という離れた場所でございますから、前よりはだいぶ貸出し冊数が増えたかなと、自分では考えております。

議長 はい。ありがとうございます。次の方、何かありませんか。

委員 初めて参加させていただいて、大変参考になっております。私は、沼ノ端小学校のPTA会長をやらせていただいています。全国的にも確か沼ノ端小学校しかないんじゃないかなと思うんですけども、蔵書票の作成と、しおりの作成を5年生、6年生が、何年も前からやっております。例えば、苫小牧市は紙の町でもありますので、市内の小学校全てに広がるような活動になり、蔵書票のコンクールなんかも開けるようになったらいいかなあと考えております。

議長 はい。ありがとうございます。次の方、何かございませんか。

委員 はい。まだまだ、勉強させていただかないと、私なりにどうこうという考えは、まだまとまっていないんですが、私の立場からすると、もっと家庭とか地域とか、そういったところでの本を読む、本を手にする機会というのは、どういう展開をすると町内会だったり、家庭の中で、どんどん増えていくのかなというのは、考えていかないといけないのかなと思って、みんなの話を聞かせていただいているところです。よろしくお願いします。

議長 はい。ありがとうございます。次の方、何かございませんか。

委員 はい。皆さんから色々なお話がありまして、ほんとに利用者数をなんとか12パーセントという数字まで増やすようことを、もっとこれから良くしてなんとかやっていってほしいなという感じがしました。

議長 はい。ありがとうございます。図書館の利用に関して何かこれはというのがありましたらお願いします。

委員 これはっていうことかちょっと、話が変になっちゃうかもしれないんですけど、実はですね、私は、今年度、苫小牧高専の学術情報センター長と、前センター長が退職なものですから、先ほどご指摘あったんですけど、退職なさる方が続けるという訳にはいかないものですから、交代とご挨拶させていただいたんですが、実は、本校で約17,000冊程度の本の処分に困っています。学校自体の図書館自体がそれほど大きなものでないんですから、本校が出来て48年、まもなく50周年を再来年迎えます。ちょっと話がずれちゃう話で申し訳ございませんけども、これらの本をどうしようかと。実は、退職なさる先生方が、最近増えてまいりまして、私も後4年、5年で退職です。そうするとちょっと違う専門書というのが、主体にはなるんですけども、高専でございますので、これをどうしようかということで、今うちの図書の方で色々調べているんですけども、電子図書化、著作権のこともあるんですけども随分それがゆるくなると。そういう部分がございまして、これらの物をただ廃棄するという訳にもいかないということで、出来るだけ電子図書化をしようという話が今持ち上がっています。校長等にも話して予算のこともありますし、図書館の職員が、あれをする訳にもいかないものですから、まして10,000冊以上の。ただし、これが電子図書化できますと、例えば内の学校ですと、計算機だけじゃなくて、コンピューターをよく学生使うものですから、ある意味では、非常にリアルタイムに自分達のところに持ってこれる。先ほども言いましたけども、著作権のこともあるから、簡単にはいかない部分もあるのかもしれないんですけど、そういうちょっと新しいスタイルの、図書の使い方ということの時代が出てきているのかなと。内の学校が先駆けてやればとは思いますが、そうすると、学生はリアルタイムで、自分の持っている端末等で、ある程度の資料、本を呼び出せると。それから図書館自体も、古くなる。先ほどもお話がありましたけども、廃書しなければならない図書があると、そういうこともありますけど、先生方の中にも非常に思いがありまして、だめだと。実質的に見れば、大変な部分もあるんですけども、これも電子化すると、ある程度の部分も復元できるということもあると聞いてまして、今のお話聞いてて、内もそういう面でチャレンジして、何か良い方向性がありましたらお話をさせていただきたいなと思ってちょっと聞いておりました。

議長 本ていうのは私もめくるものというイメージを持っていたら、最近は、こういう状態ですもんね。

委員　　そうですね、私も全部が良いとは言わないんですけども、専門書的なものと古くなって、ただ廃棄するというのは、実に口惜しいものがあるものですから、どんな形でも残しておきたい。できれば場所をとりたくない。国の予算もどんどん少なくなりまして、新しい冊数を買うのも随分控えてはいるんですけど、学生の要望の冊数と先生方の蔵書と、新しい先生の交代がなされると、どんどん本だけが増えてまいりまして、図書館にも収納しきれないと。閉書とかも置けないと。ここ数年間退職なされた先生方のはダンボールの中に入れたままで、リストだけが、学内回って必要な先生が居たらその教諭室で保管していただけないですかという状況になっているという現状でございます。ある意味では、そういう形で、本のままで残れば良いんですけども、色んな意味では、そうも行かない時代になっているということでは、ちょっとやってみたいと思っております、先程も言いましたが、何か進展がありましたら、ご報告させていただきたいと思えます。

議長　　ちょっと発想の転換を迫られる、そういうような感じがしますね。

委員　　すぐ一気にということではないんですけど、物によっては、古いものの残し方が電子化してしまうという時代になっているのではないかと、ということを感じてはおります。

議長　　はい。ありがとうございます。資料的には予算の方の部分だけ残っていたんですけど、13ページ予算の関係の部分では、何かご意見とかお持ちの方いらっしゃいますか。

委員　　この予算は、一時一律何パーセントカットとか、全庁舎にかけられた時期があって、そのときに図書館は非常に頑張って、図書館はそういう制度はそぐわないということで、頑張った時期があって、今こういうふうに関書費が高くなってきているというか、維持してきている。他のところは、かなりどんどん減らされてきている。苦小牧もかつては5～6年前位までは、そんな時期があったような気がするんですけどね。最近なんか頑張って、耐えているような気がするんですね。だから、これは、やはりこのまま継続してほしいと思います。ただ、それと併せて、先ほどからも出ていますけれども、利用率が横ばいか減ってきているかというふうな11～12パーセントを低迷していると。これはですね、一つは時代のせいだと思うんですね。今、議長さんも言われていましたように、見方が変わってきている。簡単に言えば、我々はこうやって開いて読んでいく。簡単に言えばどんどん出てくる。そういう時代になってきている。その中で読書の有り方というのは、一つは質が問われてきているんだろうと思います。ですから、そういう時代の中で単にこの利用率だけを見ていくと、なんだ去年より少なくなったんじゃないか、一昨年より少なくなったんじゃないかって、その数字だけで持っていても、これはちょっと対応できないんじゃないかなあという気がするんですね。将来的には、もっと質的にも変わってくるんだろうと思いますし、何を、どんなものを利用して本を読むのかということも、視点を変えていかなければ駄目なんじゃないかなあという気がするんですね。だから、この審議会でも話するときでも、単に数字だけを見ていたのでは、解決できないのではないかと。ですから、そういう点で言えば、小中学校に集団貸出しで本を持っていく。これによって中学生なんか、わざわざここにこなくても学校の図書室で利用できる。こうすれ

ばカウントはどうなっていくのかなあ。それも含めてカウントしていったら、どんどん増えていくことができるんでしょうし、そういうところのカウントの仕方の工夫の問題、あるいは、本の読ませ方の工夫の問題、そういう質的に変わってきているんじゃないかな。それで今、どう図書館として対応していくのか。そういう点では、大きな変わり目なんだろうなという気がするんですよね。その辺をこの協議会なんかで、もうちょっと時間を取って図書館職員の方々とじっくり話をしていたりですね、あるいは、もっと他のたくさんの方々の声を聞いたりしていくと、案外ひょっとしたら良いアイデアが出てくるのかな。先ほどから聞いていてそんな感じも持ちました。

議長 はい。貴重なご意見ありがとうございます。色々発想の転換も迫られる時代だなという感じがしております。すいません。私も実は、前任者が転勤したということで、この場に來ることになりまして、会長になったら議長をすることも知らずにここに來た訳ですけども、一つよろしく願いいたします。色々ご意見いただいてきて、議事の方も大体終わりかなというふうに思っております。その他で何かございませんか。

委員 はい。私は、前年度から担当させていただいて、今、指定管理になるかという、とても大変で大きな課題をいただいております。そして、その諮問を受けるという途中で、私もワーキンググループの一人として色々調べさせていただいて、まだ途中なんですけども、メンバーも新しく変わったので、ここにいらっしゃるメンバーが、もう一度同じスタート地点に立てるように、昨年度までの経過と、ワーキンググループで調べた中間報告になりますけども、そういったものを一度なるべく早い時期に、発表するような機会をいただいで、指定管理に対する問題を早急に、今年度もスタートできるようにした方がいいのではないかなと考えております。昨年もそうだったんですけど、皆さんお仕事をお持ちなので、全員が全員、数が集まるというのは、ほんとに去年もすごく大変で、なるべく多くの人が出られる日にちをとということだったんですけど、それでも半分くらいしか、参加出来なかったという実情がありました。今年はなんとかですね、参加できる人数を増やした中で、そういうスタートラインに立てるようなお話が出来る機会を設けて、それで、この問題に対していつまでに、どういう形でまとめる必要があるのかという日程的なことを含めて、再確認してそれで今日は閉会した方がいいのではないかと思います。

議長 はい。先ほど、委員の方からもありましたように、これでリセットになったんでは、今までの経過というのは、意味なくなってしまうのでね。その辺りお含みありますよね。お願いします。

図書館長 はい。ありがとうございます。そう言ったことで、少しお話させていただきたいと思えます。図書館協議会といたしまして、昨年7月から制度導入についてお話をさせていただいておりました。協議会といたしましても、学習会やワーキンググループでの取り組みなど非常に高い意識の中でご意見を頂いている経過がございます。ここで、委員さんにつきましても、推薦団体の中において職域の変更や、役員変更の中で多少変わったという結果もでございます。そう言ったことで、今、委員の方からもお話がありましたように、

一度経過説明と、今後の活動について確認の意味で、早急に図書館協議会として、会議を開かせていただければと考えております。本日は、新しい委員さんには、3月にワーキンググループでまとめていただいた中間報告、それから昨年7月以降に、説明に使った資料を冊子にまとめてお配りしております。大変恐縮かと思いますが、ちょっと目を通していただいて、疑問点等あれば次回にというふうに考えております。そこで、次回の会議の開催についてはですね、大変早急で申し訳ないんですが、今月の27日水曜日、若しくは28日木曜日。あの皆さんの方で土曜日でも良いということであれば23日でもと思いますけれども、いかがでしょうか。

< 委員予定確認 >

図書館長 それでは28日、1名の委員の方以外の方はよろしいでしょうか。大変、委員には失礼かと思いますが、開催させていただいてもよろしいでしょうか。

委員 はい。あの、恐縮しています。

図書館長 報告はさせていただきますので、申し訳ありません。部長28日はどうでしょうか。

部長 私は大丈夫です。

議長 それでは、図書館協議会を14時ですね。

図書館長 はい。28日、木曜日ということで、その旨大変恐縮なんです、ご都合をお願いしたいと思います。

議長 それでは、28日、14時からということで宜しく願いいたします。そのほか、連絡その他ございませんか・・・。

それでは、次回また、重たい話があるんだなということも私、今、分かってきましたが、是非新しい方、資料の方ですね、是非しっかりと目を通して、集まるということでよろしくお願いをしたいと思います。それでは、今日は一日ありがとうございました。これで一回目を終わらせていただきます。

図書館長 会長、ありがとうございました。委員の皆さまにおかれましても、ご多忙のところ本日は、大変ありがとうございました。なお、今申し上げましたとおり、こういったことで運営を進めさせていただきます。あの、会議に関わらず何かあれば、その都度で結構でございます。お電話でも、FAXでもかまいませんので、お申し付けいただければというふうに思います。では、本日は大変ありがとうございました。

閉会 15:51

<出席者>

◎ 委員

渡部 哲 会長
谷口佳子 副会長
伊藤文人 委員
岡田房子 委員
齋藤健二 委員
鈴木一恵 委員
中村峰子 委員
長谷川博一 委員
林 晃平 委員
依田俊秀 委員

◎ 教育委員会

山田真久 教育長
生水賢一 スポーツ生涯学習部長
木戸克史 同 部次長
村田重 勇弘公民館長
今村好男 同 副館長
石井之博 中央図書館館長
今井章子 同 副館長
藤原誠 同 管理係長